

# 晴れたらいいね



## 「石川酒68号」の愛称決定！

酒米新品種「石川酒68号」の愛称が  
ひやくまんごくのしろ  
「百万石乃白」に決定しました。  
この酒米を使った日本酒が、今春本格  
デビューします。

(写真：石川県酒造組合連合会の皆さんの  
知事表敬)

## 目次

### 特集

酒米新品種「石川酒68号」の愛称決定  
～「百万石乃白」～

P2

### 現地ルポ

石川、県央、奥能登

P4

### 中央普及支援センターだより

スマート農業の推進について

P5

### 行政情報

地域の将来について皆で考えてみませんか？

石川県のCSFに対する取り組みについて

P6

### いしかわ

農業総合支援機構だより

P8

### いしかわ

農業振興協議会だより

P9

### 研究ノート

農林総合研究センター 畜産試験場

P10



# 酒米新品種「石川酒68号」の愛称決定

ひゃく まん ごく の しろ

## ～「百万石乃白」～

県農林総合研究センターが11年の歳月をかけて開発した酒米新品種「石川酒68号」の愛称が「百万石乃白（ひゃくまんごくのしろ）」に決定しました。

この酒米を使った日本酒が、今春本格デビューします。

### 1. 愛称について

令和元年7月18日から8月18日にかけて石川酒68号の愛称を募集したところ、全国から約3,000件の応募があり、選考の結果、「百万石乃白（ひゃくまんごくのしろ）」に決定しました。

「百万石」は、加賀百万石にちなみ石川県の酒米であること、「白」は混じりけのない純粋なさまを意味する言葉であり、すっきりとした味わいや精米された酒米の白さ、日本酒の仕込み時期の雪景色を表現しています。また、この「白」には、酒米に各酒蔵が培ってきた技術や想いという「彩り」が加わり、個性豊かで多彩な味わいの日本酒が生まれて欲しいという期待が込められています。



令和2年1月22日に愛称「百万石乃白」を発表

### 2. 開発の経緯

石川県は、冬場の寒冷な気候、日本三名山のひとつに数えられる霊峰白山に源を発する手取川をはじめとする地下水脈など、水や米づくりの環境に恵まれ、古くから酒どころとして知られています。美味しい日本酒は、良質な「水」、「米」をもとに「人」の技で造られており、石川が酒どころと言われる所以は、この三拍子が揃っているからと言えます。

近年、大吟醸酒や吟醸酒、純米酒といった品質等の面で差別化された付加価値の高い日本酒市場が拡大していることから、地域特有の酒米で日本酒を造り、独自性を打ち出していく工夫が強く求められてきました。

このような中、県内の酒蔵から石川県でも栽培できる大吟醸酒に適した石川のオリジナル品種の育成が要望されてきました。そして、県では大粒の酒米「ひとはな」と吟醸酒向けの酒米「越淡麗」を掛け合わせた県独自の酒米を山田錦と交配させ、「百万石乃白」が誕生しました。

### 3. 特長

「百万石乃白」は、酒米の特徴のひとつである心白の発現率が低いものの、線状・点状といった小型の心白の比率が高く、高精米が可能であることが特長で、50%以上精米したものを使う大吟醸酒に適しています。玄米の表面は雑味の元になるタンパク質などを多く含んでいるため、より精米できたものがすっきりとした味わいのお酒になると言われています。「百万石乃白」は、タンパク質含有量が他の酒米と比較して少ないため、より雑味が少なくすっきりとした味わいの日本酒に仕上がります。さらに、「百万石乃白」を使った日本酒には、カプロン酸エチル（リンゴや洋ナシのような香り）や酢酸イソアミル（バナナのような香り）といった成分が多く、フルーティーな香りの日本酒に仕上がることも特長です。

「百万石乃白」を試験醸造した県内の酒蔵からは、「精米の割れが少なく酒が造りやすい」、「綺麗な味わいに仕上がる」といった評価をいただいています。

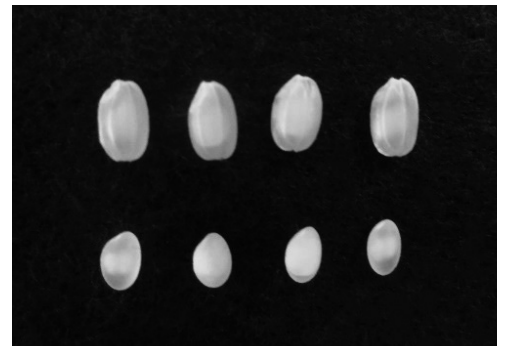
生産面では、山田錦より草丈が短いいため倒伏しづらく、収量性も五百万石にやや勝っており、栽培上のメリットがあります。

### 4. 今後について

日本酒の国内出荷量が減少傾向にある中、輸出量は、日本酒ブーム等を背景に近年増加傾向にあり、海外では、ワインの世界でいう「テロワール<sup>(※)</sup>」を日本酒にも求める傾向にあります。「百万石乃白」により、石川県の「米」、「水」、「技」が揃ったオール石川の新しい日本酒が生まれることで、酒どころ石川のブランド力をさらに高める一手として、国内外から注目されることを期待しています。

愛称を発表した谷本知事と石川県酒造組合連合会との懇談の場では、吉田隆一会長から「様々な可能性を秘めた『ダイヤの原石』」と高く評価していただきました。今後は、県内の酒造業や稲作農業の発展や継承につながるように、関係者と連携しながら、「百万石乃白」を大切に磨き上げ、育てていきたいと考えています。

※「テロワール」という言葉は、ワイン業界でよく語られ、ブドウが育った地域の気候や土壌、地形、水など、土地の特徴を表現するときに使われます。



酒米の比較写真  
(左から「山田錦」、「五百万石」、「石川門」、「百万石乃白」、  
上は玄米、下は50%精米)



左から百万石乃白、  
五百万石、山田錦の稲株

# 現地の声

## 県が育成したフリージア「エアリーフローラ」の生産拡大に取り組んでいます

石川 発

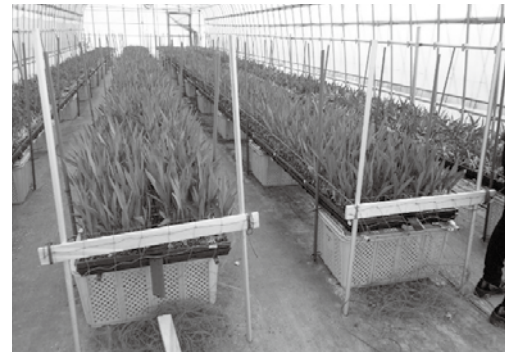
県では、水稻育苗用ハウスなどを冬季間に活用できる品目として、県が育成したフリージア「エアリーフローラ」の生産拡大に取り組んでいます。

当事務所では、これまで栽培者がいなかったJA白山の管内において、パイプハウスを所有する中小規模の水稻主体、野菜栽培の経営体に栽培を勧め、白山市の鶴来地区で1経営体、鳥越地区で2経営体が新たに栽培に取り組むこととなりました。

パイプハウスの未利用期間に栽培するため、栽培後の撤去作業を速やかに行えるよう水稻の育苗箱を活用しています。また、フリージアの出荷時期は通常3～4月ですが、次年度の水稻や野菜の育苗が始まる前に栽培から出荷を完了できるよう、球根を9月上



JA白山での栽培説明会の様子



鳥越地区のエアリーフローラ栽培施設

旬に水稻育苗箱に植え、5～6週間冷蔵処理した後にハウスで栽培することで、2月下旬～3月上旬の出荷を目指しています。

いずれの経営体も花の栽培に初めて取り組むことに加え、鳥越地区のような標高が高く、かつ積雪が深い地域での栽培は初めてであることから、引き続き農林総合研究センター、JA白山と連携して重点的に技術指導を行っていきます。

## 「高松紋平柿」更なるブランド化への取り組み ～プレミアム規格の新設～

県央 発

紋平柿は、古くから宝達山系に自生していた本県在来の渋柿品種です。その昔、かほく市(旧高松町)の農家の庭に樹齢100年を超える大きな柿の木があり、その果実を加賀藩の前田家に献上したところ大変喜ばれ、農家の屋号から「紋平柿」と呼ばれるようになったとされています。大玉でツヤのある外観や滑らかで舌触りの良い食感と甘みが特徴で、これまで地元市場を中心に、贈答用などに重宝されてきました。

かほく市で生産される紋平柿は、「高松紋平柿」として市の特産品ブランドに認定されており、今年度は出荷規格の最上位「プレミアム」を新たに設定し、高付加価値化とブランド力向上に向け高級果実として販売・PRに取り組ましました。

高松紋平柿生産組合を中心に、JA、全農、流通業者、かほく市、津幡農林事務所からなるブランド化検討会を立ち上げ、関係者が一体となってブランド化の方向性やプレミアム規格基準の検討を行いました。また、ロゴや出荷箱、販促資材などについては、6次産業化プランナーや



ブランド化検討会の様子

デザイナーなどの専門家から助言をいただき、イメージに合った高級感のあるデザインを採用しました。

令和元年11月1日に金沢市場で行われた初せりでは、「プレミアム」に一箱10万円という紋平柿の過去最高価格が付けられ、せりに立ち会ったかほく市長をはじめ、生産者や関係団体から驚きと喜びの声が聞かれました。

また、11月14日に皇居で行われた大嘗祭に高松紋平柿が供納され、ブランド価値をより一層高める名誉となりました。

これらの取組をきっかけに、今後も関係機関が一体となって、産地の活性化に向けた支援を進めていきます。



桐箱に収められた高松紋平柿プレミアム

「能登栗」は奥能登管内の能登農地開発地で栽培されており、生栗は金沢市場、むき栗はJAおおぞらの加工場及び農家で加工され、県内の菓子業者に出荷されています。

近年、むき栗需要が高まっていますが、現状の生産能力では需要に追いつかないこと、生栗の家庭用需要が低くなっていること、重要害虫であるクリシギゾウムシ（栗の実を食害）の防除剤（ポストハーベスト農薬）が今後使用できなくなることから、当事務所ではむき栗への全面移行に向けた支援を行ってきました。

クリシギゾウムシの防除については、氷蔵庫（-2℃）で生栗を4週間程度貯蔵することで卵を殺すことができます。しかし、氷蔵庫はコストが高くすぐに導入できないため、既存の冷蔵庫で同様の効果が得られないか検証したところ、庫内は2℃前後で推移し同様の効果が得られませんでした。貯蔵1か月後でもクリシギゾウムシの被害を抑

えられることがわかりました。

また、JA加工場では、全量をむき栗に加工する場合、最盛期には日量600kgを冷蔵庫で貯蔵する必要があります。そこで、処理能力向上のため、むき栗機の追加導入、仕上げ作業の人員確保等を生産者の部会組織である石川県栗生産振興会に提言し、振興会の総会でむき栗全面移行の方針が承認されました。

今後、振興会及び関係機関と協議しながら、令和3年には全量むき栗加工体制の確立を進め、「能登栗」の産地を活性化していきたいと考えています。



鬼皮・渋皮むき機



むき栗

## 中央普及支援センターだより

### スマート農業の推進について

近年、全国でスマート農業への期待が高まっています。農林水産省は、スマート農業を「ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用して、省力化・精密化や高品質生産の実現を推進する新たな農業」と定義しており、農作業の省力・軽労化、新規就農者の確保やスムーズな技術継承などが期待されています。

県では、農家の収益力向上を目的に、直播栽培と農業用ブルドーザを組み合わせた水稻の生産コストの削減や、ICTを活用して果樹の熟練農業者の技術をスマートフォンで学べる学習教材の開発に取り組むなど、全国に先駆けて、県内外のものづくり企業と連携して、企業が持つ技術やノウハウの活用に積極的に取

り組んでいます。

また、国が全国69地区で行っている「スマート農業実証プロジェクト」において、農業試験場がコマツ、オプティム、JA白山、県立大学、いしかわ農業総合支援機構、石川農林総合事務所と連携して「大規模水田経営における農業用ブルドーザとドローンを活用したスマート農業技術体系の実証」を、農事組合法人夢耕坊（白山市美川地区）で実施しています。

今後は、農家の収益力向上や地域農業の継続・発展のため、導入技術の実証や経営改善効果を検証し、必要な技術の推進を図っていきます。

#### 1 農業機械



高性能田植機  
・直進アシストなど



高性能コンバイン  
・収量センサ付き



ドローン  
・農薬散布など



ロボットトラクター  
・自動操舵など

#### 2 システム、センサー



生産管理システム  
・作業状況等を管理



水管理システム  
・水管理を省力化

#### 3 その他



リモコン草刈機  
・遠隔操作で草刈



アシストスーツ  
・作業負荷軽減

「スマート農業技術」の紹介（※一例であり、開発中の技術も含まれます。）

## ● 地域の将来について皆で考えてみませんか？ ～人・農地プランの“実質化”に向けて～

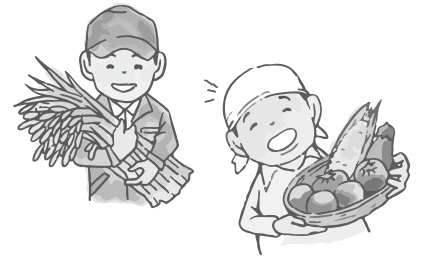
農業政策課 濱崎 貴史

### 1. はじめに

担い手の皆さんは、将来の農業経営について、どのような展望を持っていますか？

全国的に農業者の高齢化が進む中、離農により増加した空き農地の解消や、継承が大きな課題となっています。このような中、皆さんにはそれぞれの地域の担い手としてどういった役割が期待されているのでしょうか。

皆さん方担い手農家と地域住民が協力して、その答えを探るために、地域農業の将来の設計図「人・農地プラン」を活用した話し合いに参加してみませんか？



### 2. 人・農地プランとは

人・農地プランとは、地域の話し合いにより将来の担い手を明確化し、担い手への農地集積の具体的な計画を定めたものです。

この取り組みは平成24年度から始まり、県内の各市町では、これまでに計673プラン（市町当たり約35）が策定されました。この「市町あたりプラン数」は全国でもトップクラスで、各地域の状況に応じたきめ細かなプランが策定されています。これは、県内の各市町が、地域の農地の適切な維持管理について真剣に取り組んできたことの現れでもあります。

### 3. 皆さんの参加で、プランが生まれ変わります

現在、各市町において、プランを皆さんの思いに沿った形とするための「実質化」の取り組みが始まっています。具体的には、既存のプランのうち必要と判断されたものについて、皆さんとともに以下の手順で実質化に取り組みます。

- ① 地域の将来の農地利用に関して、市町が行うアンケート調査に回答頂きます。
- ② アンケートの結果や地域の農地地図などを用いて、皆さんと地域住民で地域の将来の農地利用について話し合いを行います。

この結果、地域の総意として同意されたものが、「実質化された人・農地プラン」となります。

### 4. 皆さんへのお願い

一筆一筆の農地は、あくまで個人の所有する財産ですが、それらを地域全体で効率的に利用し、持続的な農業が営まれることは、農業者の生業としてはもちろん、景観保全や治水機能の維持、生物多様性の向上などといった様々な公共的価値にも繋がります。

皆さんには、アンケート調査や話し合いへの積極的なご協力、ご参加を頂き、是非、お住まいの地域における将来の農業の姿について一緒に考えて頂きますよう、お願い申し上げます。



# ● 石川県のCSFに対する取り組みについて

農業安全課 寺尾 彩

平成30年9月に国内で26年ぶりとなるCSF（豚熱）が発生し、令和2年1月までに1府9県で発生が確認されています。また、野生イノシシでの感染は、石川県を含む12県で確認され、感染拡大が続いています。

## 1. 養豚農家に対して

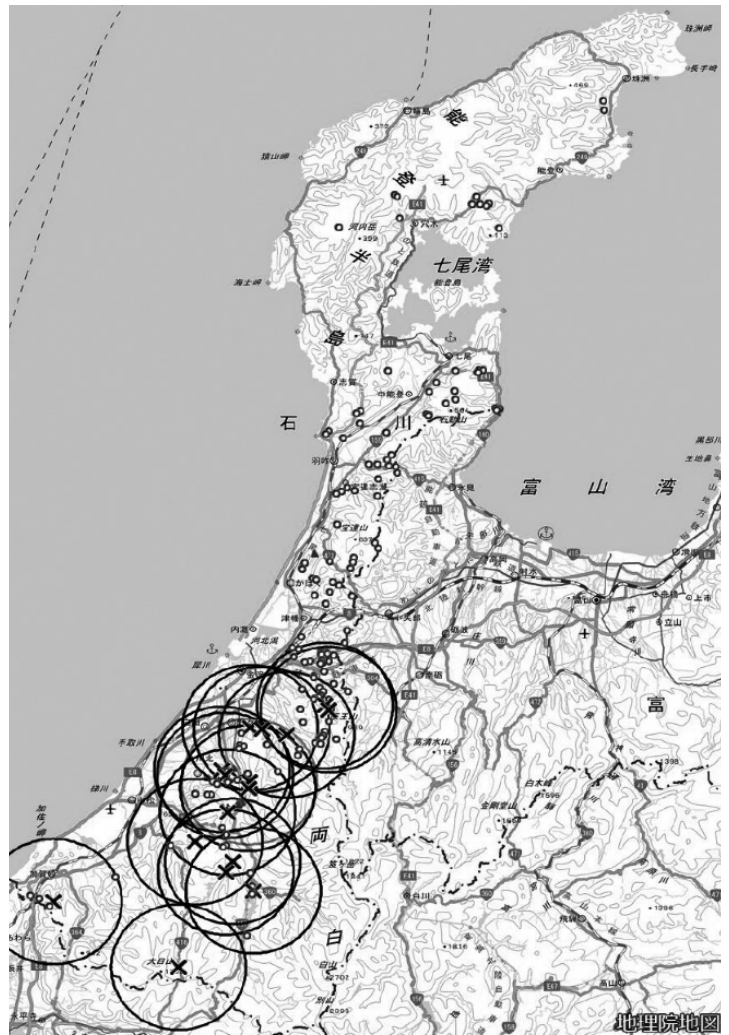
県では、平成30年9月の発生以降、CSFに関する情報を注視し、養豚農家へ情報提供を行うとともに、飼養衛生管理基準（衛生管理区域の設定、農場専用の衣服及び靴の設置・使用、畜舎及び器具の定期的な清掃・消毒など、家畜の所有者がその飼養に係る衛生管理に関し最低限守るべき基準）の遵守状況を立入検査などで確認し、指導を徹底しています。また、畜舎周囲の消毒のための消石灰配付や、イノシシやネズミといった野生動物が畜舎に侵入しないようにするための侵入防止柵やネットの設置支援など、養豚農家の防疫体制を強化しています。

## 2. 野生イノシシに対して

野生イノシシ対策として、県内におけるCSFのイノシシへの浸潤状況を確認するため、野生イノシシのCSF検査を県下全域で実施し、検査状況を養豚農家や関係団体に情報提供しています。令和2年1月28日現在、検査頭数233頭のうち、白山市、小松市、金沢市、加賀市、能美市で発見または捕獲された17頭で陽性が確認されています。

また、CSFウイルスを養豚農家のある能登へ拡散させないため、野生イノシシに対する経口ワクチンの散布を実施しています。夏期第1回は8月7日から津幡町とかほく市で、第2回は9月7日から津幡町、かほく市、宝達志水町、羽咋市、志賀町、中能登町、七尾市で、冬期第1回は11月26日から、第2回は1月6日から同エリアでワクチン散布作業を実施しました。

今後も引き続き対策に取り組み、家畜防疫に努めてまいります。



野生イノシシのCSF検査状況  
(令和2年1月28日時点)

# いしかわ農業総合 支援機構だより

## 『農地を活かす!!』

活力ある農業地域づくりに農地中間  
管理事業をご活用ください

### 1. 事業の概要

農地中間管理事業は、国が「農地中間管理事業の推進に関する法律」で定めた農地貸借の制度で、「農地バンク」とも呼ばれるものです。地域の話し合いにより、農地中間管理機構が農地の所有者（出し手）と耕作者（受け手）をつなぎ、農地の集積・集約化に活用されています。（図1参照）

石川県では、平成26年7月に（公財）いしかわ農業総合支援機構が県の指定を受けて事業に取り組んでおり、これまでに出し手9,600人、受け手1,000人に活用されています。

### 2. 事業の仕組み

地域農業の将来を地域で話し合い、担い手への集積に合意が得られた地域（人・農地プラン作成地域）において農地の長期貸借を行うもので、出し手と受け手の間では直接の利用権設定はせず、中間管理機構が双方の間に入り、それぞれ別の利用権を設定します。

具体的には、出し手から原則10年間以上の期間で農地を借り入れ、その農地を借受希望に応募した受け手に転貸します。出し手には中間管理機構から賃貸料が確実に支払われ、受け手には賃借料の支払先を一つにまとめられるといったメリットがあります。（表1参照）

### 3. 農地集積・集約化の支援体制の一体化

事業開始から5年が経ち、令和元年度には法律が改正されました。JA等の円滑化団体が実施してきた「農地利用集積円滑化事業」は「中間管理事業」に移行し、集積等の支援体制が一体化されます。4月1日以降、円滑化事業で新規や更新の利用権設定はできなくなりますが、一体化により中間管理事業の対象区域は「市街化地域以外の農地」に拡大されることとなります。（図2参照）

このように、農地中間管理事業は人と農地に関する個人や地域の問題を解決する支援制度です。事業対象区域の拡大といった制度の見直しもありましたので、今一度、地域ぐるみで話し合いを行い、活発な農業地域づくりにご活用ください。



図1 農地中間管理事業パンフレット

表1 農地中間管理事業を活用するメリット

<b>農地所有者（出し手）</b>
・ 賃貸料が確実に支払われる
・ 契約期間終了後に農地は確実に返還される
・ 要件を満たす場合に協力金が交付される 等
<b>耕作者（受け手）</b>
・ 賃借料の支払い先を一つにまとめられる
・ 長期の農地借入れで安定した営農ができる
・ 農地を集約化し作業を効率化できる 等
<b>地域で取り組むメリット</b>
・ 要件を満たす場合に協力金の交付対象となる
・ 機構関連農地整備事業の採択を受けると、農業者の負担なしで圃場整備事業を実施できる

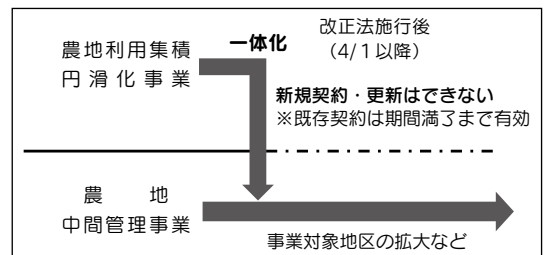


図2 支援体制の一体化

いしかわ農業総合支援機構は、石川の農業をもっと元気にする様々な活動を展開しています。農業に関して相談したいこと、もっと知りたいことなどございましたら、お気軽にお問い合わせください。

(公財) いしかわ農業総合支援機構 TEL 076-225-7621 FAX 076-225-7622  
〒920-8203 石川県金沢市鞍月2丁目20番地 石川県地場産業振興センター新館4F



# いしかわ農業振興協議会だより

## 令和元年度 中核農家経営改善・事業多角化及び地域農業振興共励会受賞者決定!

いしかわ農業振興協議会

令和2年2月12日、県農林総合研究センターにおいて、令和元年度いしかわ農業振興協議会研究発表大会が開催されました。

大会に先立ち、中核農家経営改善・事業多角化及び地域農業振興共励会受賞者の発表が行われ、各受賞者が自身の経営について紹介を行いました。

### 経営改善・事業多角化共励会 受賞者の概要

#### 優秀賞 メガ集落営農法人の強みを活かした営農 の実践と挑戦

株式会社アグリとくみつ  
代表取締役社長 大岸 修一氏 (白山市徳光町)

【経営類型・規模】	水稻60.5ha、大豆35.8ha、 大麦34.7ha、トマト4a
【労働力の構成】	基幹構成員6人、臨時雇用15人
【経営の特徴】	県内最大規模の131haという経営面積で、 ブロックローテーションによる水稻・大 麦・大豆の2年3作体系を実施しており、地 区でトップクラスの単収実績を上げている。 畑作物の作付の割合を増やし、高い収 益性を継続・維持することで経営の安定化 を実現しており、水田大規模経営体の多い 松任地区において、大麦・大豆の生産拡大、 2年3作体系の牽引役を果たしている。

#### 優秀賞 自家栽培した飼料用米を活用し、家族で 取り組む能登豚生産

有限会社ミヤモト  
代表取締役 宮本 宗弥氏 (羽咋郡志賀町長沢)

【経営類型・規模】	繁殖豚240頭、肥育豚1,637頭、 水稻10.0ha
【労働力の構成】	基幹構成員2人、常時雇用1人、 臨時雇用1人
【経営の特徴】	母豚に優良な系統を導入し、健康状態をき め細やかに観察したことで、繁殖成績を改 善するとともに、仔豚の温度管理の徹底な どにより肥育成績を向上させているほか、 県内で初めて自社で飼料用米を栽培し、肥 育豚への給与により飼料コストの低減を 実現している。恒久柵や防鳥ネットの設置 などにより、CSF等の家畜防疫対策を徹底 している。

#### 優秀賞 地域の特色を活かした新技術の導入

山崎 強氏 (輪島市門前町二又川)

【経営類型・規模】	水稻30.0ha、大麦1.7ha、そば2.0ha
【労働力の構成】	家族労働(主)1人、臨時雇用5人
【経営の特徴】	耕作放棄地の再生により経営規模の拡大を 進めた結果、経営面積32haは奥能登地域に おいてトップクラスとなっている。奥能登管 内ではいち早くドローンを導入し、除草剤散 布や本田防除の省力化を図っているほか、地 域の特性を活かした能登米や能登棚田米な どの栽培に取り組んでいる。本郷里山保全会 の副会長として、地域住民と農村の多面的機能 の維持・イノシシ対策に取り組んでいる。

### 地域農業振興共励会受賞者の概要

#### 優秀賞 山間農地を次世代へ繋ぐ里山の守り手

前坂 善治氏 (小松市大杉町)

【経営類型・規模】	水稻24.6ha、農作業受託17.0ha
【労働力の構成】	家族労働(主)3人、家族労働(補)1人、 常時雇用1人、臨時雇用のべ50人
【取組みの特徴】	離農による農地の荒廃が危惧されている大杉 地区やその周辺地区において、地域の担い手 として農地を引き受け、耕作放棄地の発生を防 いでおり、米の生産や販路拡大に尽力してい る。町内会において、離農者も用水路や畦畔の 管理、草刈りなどを担う仕組みを作るとも に、「ふるさと会」を創設し、保全活動に不在 地主も参加するなど、地域で中山間地域農業へ の理解促進や協力体制が構築されている。

#### 優秀賞 農業の継続・農地の保全と地域の賑わい 創出を目指して

農事組合法人依ファーム  
代表理事 坂本 博之氏 (金沢市依町)

【経営類型・規模】	水稻31.6ha
【労働力の構成】	組合員18人
【取組みの特徴】	全戸参加型の農事組合法人として中山間地 域の農地保全に取り組んでおり、良食味が 生産できる土地条件を活かして特別栽培に 取り組むなど、品質向上による収益力向上 に取り組んでいる。地域住民が生産した野菜や 加工品を、平成27年に開設した朝市で販売 し、賑わい創出に貢献しているほか、若手に組 織の重要な役割を任せ、地区出身の町外在住 者にも参加を呼びかけるなど、集落を守る後 継者を育成している。

### 新規就農者、青年農業者・ 女性農業者共励会受賞者の概要

#### 奨励賞 地域の信頼を得て着実に規模拡大を実現 する白山麓の若き担い手

株式会社ファーム白山  
代表取締役 清水 勇介氏 (白山市瀬木野町)

【経営類型・規模】	水稻23.0ha
【労働力の構成】	基幹構成員1人、常時雇用1人、 臨時雇用4人
【取組みの特徴】	義父の水稻経営を継承し、消費者ニーズの高い 「白山麓の良質米」を生産しており、農地の集積 にあたって、地元集落で自ら説明会を企画・開 催するなど、地域の信頼を得ながら、就農から 5年間で約20haの規模拡大を実現した。地元 の若い担い手として、農村地域の維持活動に積 極的に協力するなど、地域を支える存在となっ ているほか、異業種との連携を積極的に進め ており、将来のさらなる発展が期待できる。

## 養豚における魚醤油(いしる)残渣の利用

農林総合研究センター 畜産試験場 橋本 果林

### 1. 背景・目的

県内養豚業では、他県産・外国産豚肉との差別化による能登豚のブランド力強化が目下の課題となっています。他方、日本三大魚醤のひとつで、能登で作られる魚醤油(いしる)製造の際に生じる残渣の処理が問題となっています。当試験場では、魚醤油残渣由来の油分(以下、「油分」)は健康に良いとされるDHA、EPA\*を多く含んでいることに着目し、その油分を肥育後期豚(出荷前6週間)に給与することで、DHA、EPAが豚肉に移行することを明らかにしました。

そこで今回は、最適な添加量を明らかにするため、油分の添加量の違いが、移行量に及ぼす影響と、その豚肉を冷蔵保存したときのDHA、EPAの変化について検討しました。

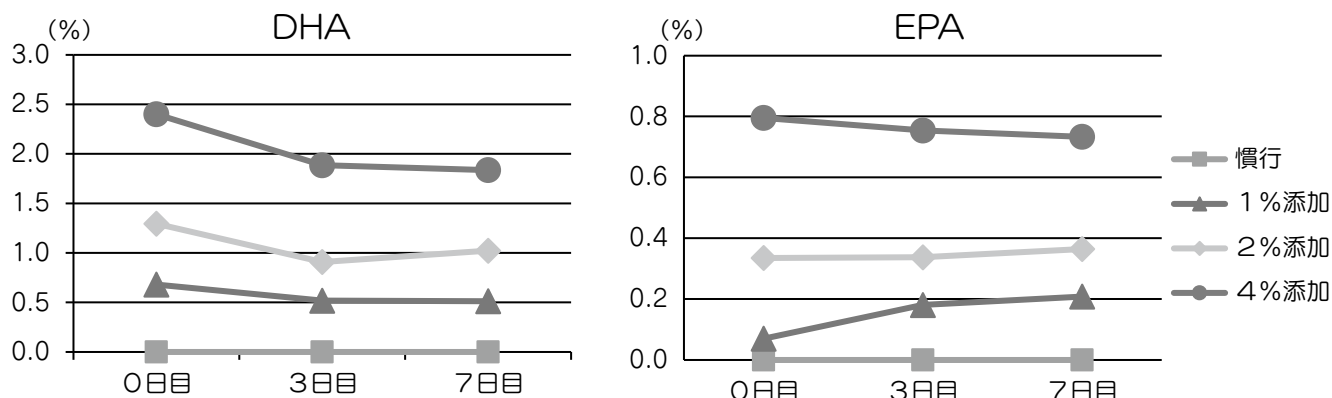
※DHA(ドコサヘキサエン酸)、EPA(エイコサペンタエン酸)は、いずれもイカやイワシ、アジ、サバなどの脂肪に多く含まれる。

### 2. 技術のポイント

- (1) 飼料への添加量の増加に伴い、豚肉中のDHA、EPAが増加しました。ただし、添加量が多くなると魚臭が強くなるため、飼料への添加の割合については、1%から2%が適当であることがわかりました。
- (2) 豚肉に移行したDHAは冷蔵保存7日目までに減少しましたが、EPAは冷蔵保存しても大きな変化がみられませんでした。(図)

図：豚肉中のDHA、EPAの変動\*

※豚肉の筋間脂肪中の遊離脂肪酸に占める割合



### 3. 成果の活用と留意点

今後の実用化に向け、魚醤油残渣から油分を抽出する方法の確立および飼料への添加方法などの検討が必要となります。

# 能登牛の増産と品質向上に向けた野外採卵事業の実施について

農林総合研究センター 畜産試験場 能登畜産センター 石田 美保

能登牛の出荷頭数は、関係各位のご協力のもと、平成30年度に年間1,000頭を達成することができました。今後は能登牛のブランド力を更に高めていくため、年間1,500頭に向けた増産体制の推進と品質向上を図ることとしております。そのためには、石川生まれ、石川育ちの優良子牛の増産が不可欠であり、能登畜産センターでは、今年度より農家が保有する優良な黒毛和種の繁殖雌牛から体内受精卵（以下「受精卵」）を採取する「野外採卵事業」を始めました。

今回は、その概要について、ご紹介します。

採卵の対象となる牛は、以下のとおりです。

- ・ 県内農家が保有している黒毛和種経産牛
- ・ 基本登録または本原登録されている牛
- ・ 能登牛の母牛として、血統などが適している牛

野外採卵のご希望を当センターにご連絡いただければ、まず職員が農家へ出向き牛を確認した後、家畜保健衛生所等が牛の健康検査や供卵牛として必要な検査を行い、その後、採卵のためのホルモン処置を実施します。この際、検査費や薬品費などの費用負担はありません。

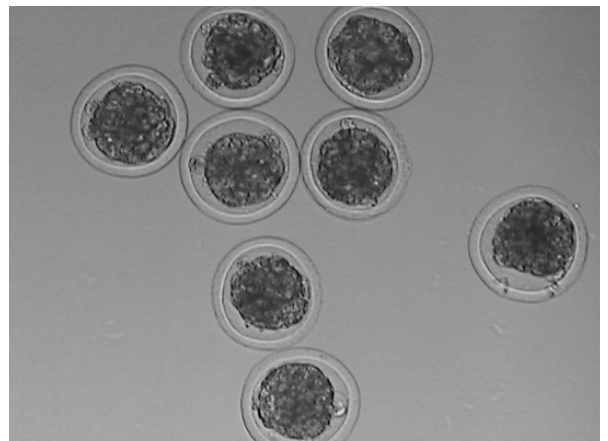
採卵は農場内で実施するため、牛の移動はありませんが、これらの検査から採卵までには約1か月間を要することから、県から畜主に謝礼金をお支払いしています。また、採卵された受精卵は全て県の所有卵とし、公益社団法人石川県畜産協会から県内農家に有償で譲渡しています。（今年度は、11月末までに5戸の農家にご協力いただき、延べ21頭から192個採卵しました）

この事業により、今後は県内農家の方に対し、より多くの受精卵を譲渡できる予定です。引き続き、能登牛の増産と品質向上に向けた取り組みを推進していくこととしておりますので、ご協力をお願いいたします。



野外採卵の様子

※天候が悪ければ牛舎内で行います。



採卵した和牛受精卵

※この後、凍結保存して、農家に配布します。

石川県／農業情報誌

# 「晴れたらいいね」

に広告を掲載して **PR** ← **サービス・集客** しませんか？

自治体広告  
ならではの  
メリット

エリアを絞った情報発信

地域での知名度向上

自治体発行の  
信頼度の高い広報媒体

お問い合わせは



# 092-716-1401

他エリア自治体広告も  
お任せください！

株式会社ホープ 福岡県福岡市中央区薬院1-14-5 MG薬院ビル7F  
東京証券取引所マザーズ上場 福岡証券取引所Q-Board上場 **財源確保** [検索](#)

令和元年度 農業情報誌「晴れたらいいね」第2号（通巻第116号）

ご意見・ご感想をお寄せください（HPからも受け付けています）

令和2年2月発行 発行者 石川県農林水産部農業政策課



TEL.076-225-1661 FAX.076-225-1618

HPはこちら

メールアドレス e210100@pref.ishikawa.lg.jp

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/nousei/suisin/haretaraiine.html>